日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited
No.2012-099
2012年8月24日
http://www.jri.co.jp

フランスも旱魃熱波

～ 強まる穀物需給逼迫懸念 ～

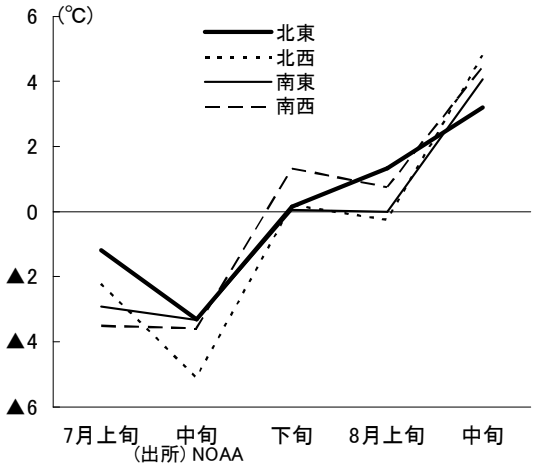
（１）本年6月来、米露中印の主要穀物生産国が旱魃と熱波に直撃されるなか、フランスでは総じて平年並みの推移。しかし8月に入り様相一変（図表１）（図表２）。上中下旬別に分けてみると、まず気温では、7月上中旬は平年を3℃前後下回り、下旬から8月上旬は平年並みで推移していたものの、8月中旬に入り、急速に気温が上昇。最大の穀倉地帯を抱える北東部では平年比+3.2℃。とりわけロレーヌ地域圏のメスが+5.3℃、シャンパーニュ・アルデンヌ地域圏のシャルルビルが+5.2℃と、際立って高温。それ以外でも、南東部+4.1℃、南西部+4.4℃、北西部+4.8℃。全土にわたって異例な高温。

（２）一方、降水量では、旬次の降水量を3倍して月ベースに引き直し平年降水量との格差をみると、まず最大の穀倉地帯である北東部では7月下旬まで平年を若干上回る降水に恵まれていたものの、8月入り後、総じて日を追って旱魃が深刻化。旬次ベースながら、厳しい降水不足に見舞われた昨春を上回る少雨に。穀倉地帯では、シャルルビル▲2.6インチ、ピカルディ地域圏のボーヴェ▲2.1インチ、メス▲2.0インチなど、フランス全土でも、とりわけ大きなマイナス。北東部以外では、7月下旬に少雨となり、8月上旬に改善に向かったものの、中旬に再び降水不足へ。

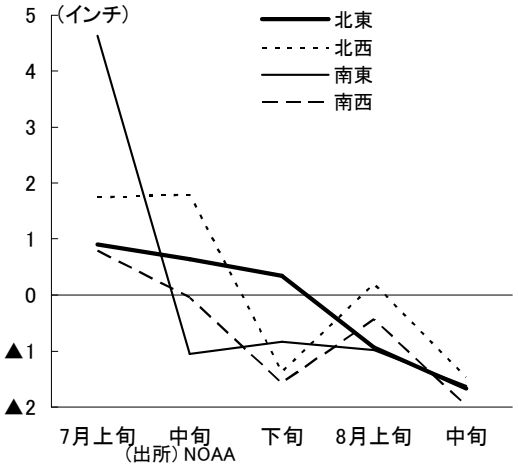
（３）フランスは世界的な穀物生産国（図表３）。FAOによると2009年の生産量は世界第5位。さらに輸出量ではアメリカ、カナダ、オーストラリアに次いで世界第4位。

（４）穀物市場では、このところの降水期待と気温低下期待が剥落し、最高値圏での推移から再び強含む展開（図表４）。これまで西欧エリアは今夏の旱魃熱波の対象外。今後、一段の穀物需給の逼迫と価格上昇が視野。

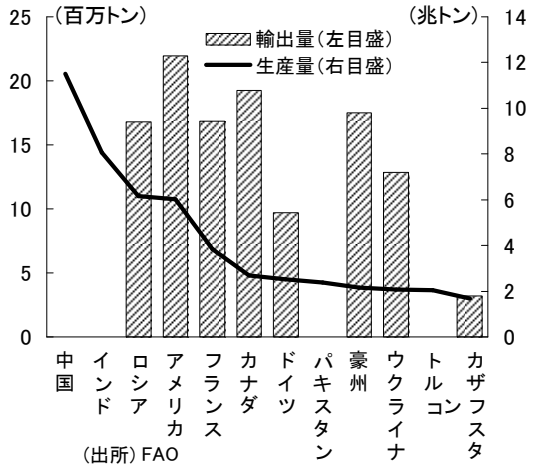
（図表1）フランスのエリア別平均気温（平年差）



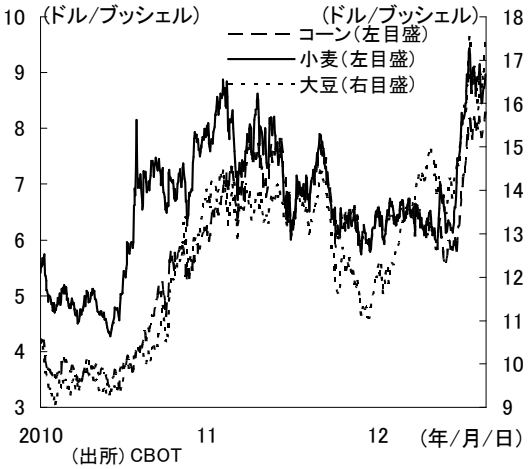
（図表2）フランスのエリア別降水量（平年差）



（図表3）主な小麦生産・輸出国（2009年）



（図表4）穀物価格の推移



《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-6833-6373）